

メダリスト凱旋

五輪、初の合同パレード

リオデジャネイロで開催されたオリンピックとパラリンピックでメダルを獲得した日本選手団による初の合同パレードが7日、都内で行われた。87人の選手が参加。選手を一目見ようと、沿道には80万人もの観衆が詰めかけ熱気に包まれた。

開会式には、小池百合子・東京都知事、丸川珠代・五輪担当大臣、鳥原光憲・日本パラリンピック委員会会長が出席。選手を代表して、吉田沙保里選手（レスリング）と共に出席した上地結衣選手（車いすテニス）は、「日本の皆様の大きな声援が私たちを後押しし、最後まで力を出せた。4年後の東京大会では、さらなる高みを目指して盛り上げていきたい」と話した。

その後、選手らは6台のバスに分乗し、銀座8丁

目交差点から日本橋室町までの約2.5キロをパレードした。沿道には、平日にも関わらず、前回ロンドン大会後のパレードを30万人上回る80万人が埋め尽くした。

パレード後の囲み会見で、メダル4個の活躍をみせた木村敬一選手（競泳男子視覚障害）は「熱気を肌で感じたし、本当にたくさん応援していただいたと実感できた。オリンピックの選手と同じように扱ってくれたのもうれしい」と感想を述べた。

また辻沙絵選手（陸上女子）は「どこを見ても多くの人で、皆が名前を呼んでくれて、幸せだった。東京大会ではさらに多くの方に見てもらえれば」と語った。

（福祉新聞・2782号 2016年10月17日）

病棟がプラネタリウム

入院患者ら笑顔（上越・さいがた医療センター）

外出が困難な重症患者に星空を届けようと、上越市大潟区犀潟のさいがた医療センターは27日、センター敷地内の重症心身障害児者向け病棟でプラネタリウムの上映会を開いた。入院患者60人は頭上にちりばめられた星を笑顔で見上げていた。

全国の病院などへ出張し、上映会を開く「星空工房アルリシャ」（甲府市）が来訪。室内の天井を使ったり、扇風機でおわん型に膨らませたエアドームを設置したりして、星空を投影した。

高さ3メートル、直径4メートルのドームの中では、優しいオルゴールの音色が流れる中、天の川や夏の大三角、宇宙から見た地球がくっきりと浮かんだ。患者たちは星の動きを目で追いかけたり、星に向かって手を伸ばしたりしながら観賞した。

主任保育士の片桐有佳さんは「星空にじっと集中する人が多かった。笑顔も見られたので、また次の機会を持てるようにしたい」と話した。

（新潟日報・新潟 2016年9月28日）